ポートの再マップ手順

StorageGRID software

NetApp
December 03, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/storagegrid-119/maintain/removing-port-remaps.html on December 03, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ポートの再マップ手順 1
ポートの再マップを削除する 1
ベアメタルホスト上のポート再マップを削除する 2

ポートの再マップ手順

ポートの再マップを削除する

ロード バランサ サービスのエンドポイントを構成し、ポート再マップのマップ先ポートとして既に構成されているポートを使用する場合は、まず既存のポート再マップを削除する必要があります。そうしないと、エンドポイントは有効になりません。競合する再マップされたポートを持つ各管理ノードとゲートウェイ ノードでスクリプトを実行して、ノードのすべてのポートの再マップを削除する必要があります。

タスク概要

この手順により、すべてのポートの再マップが削除されます。再マップの一部を保持する必要がある場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

ロードバランサエンドポイントの構成については、以下を参照してください。"ロードバランサエンドポイントの構成" 。

ⓘ ポートの再マップによってクライアント アクセスが提供される場合は、サービスの損失を回避するために、ロード バランサのエンドポイントとして別のポートを使用するようにクライアントを再構成します。そうしないと、ポート マッピングを削除するとクライアント アクセスが失われるため、適切にスケジュールする必要があります。

ⓘ この手順は、ベアメタル ホスト上にコンテナとして展開されたStorageGRIDシステムでは機能しません。説明書をご覧ください"ベアメタルホスト上のポート再マップの削除"。

手順

1. ノードにログインします。
   a. 次のコマンドを入力します。 `ssh -p 8022 admin@node_IP`

      ポート 8022 はベース OS の SSH ポートであり、ポート 22 はStorageGRIDを実行しているコンテナ エンジンの SSH ポートです。

   b. 記載されているパスワードを入力してください `Passwords.txt`ファイル。
   c. ルートに切り替えるには、次のコマンドを入力します。 `su -`
   d. 記載されているパスワードを入力してください `Passwords.txt`ファイル。

      ルートとしてログインすると、プロンプトは `$`に `#`。

2. 次のスクリプトを実行します。 `remove-port-remap.sh`
3. ノードを再起動します。 `reboot`
4. コマンド シェルからログアウトします。 `exit`
5. 競合する再マップされたポートを持つ各管理ノードとゲートウェイ ノードでこれらの手順を繰り返します。

ベアメタルホスト上のポート再マップを削除する

ロード バランサ サービスのエンドポイントを構成し、ポート再マップのマップ先ポートとして既に構成されているポートを使用する場合は、まず既存のポート再マップを削除する必要があります。そうしないと、エンドポイントは有効になりません。

タスク概要

ベアメタル ホストでStorageGRID を実行している場合は、ポート再マップを削除するための一般的な手順ではなく、この手順に従ってください。競合する再マップされたポートを持つ各管理ノードとゲートウェイ ノードのノード構成ファイルを編集して、ノードのポートの再マップをすべて削除し、ノードを再起動する必要があります。

> この手順により、すべてのポートの再マップが削除されます。再マップの一部を保持する必要がある場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

ロード バランサ エンドポイントの構成については、 StorageGRIDの管理手順を参照してください。

> この手順を実行すると、ノードが再起動されるため、一時的にサービスが失われる可能性があります。

手順

1. ノードをサポートするホストにログインします。 root として、または sudo 権限を持つアカウントでログインします。
2. ノードを一時的に無効にするには、次のコマンドを実行します。 `sudo storagegrid node stop` *`node-name`*
3. vim や pico などのテキスト エディターを使用して、ノードのノード構成ファイルを編集します。

   ノード構成ファイルは以下にあります。 `/etc/storagegrid/nodes/`*`node-name`*`.conf` 。
4. ポートの再マップが含まれているノード構成ファイルのセクションを見つけます。

   次の例の最後の 2 行を参照してください。

```
ADMIN_NETWORK_CONFIG = STATIC
ADMIN_NETWORK_ESL = 10.0.0.0/8, 172.19.0.0/16, 172.21.0.0/16
ADMIN_NETWORK_GATEWAY = 10.224.0.1
ADMIN_NETWORK_IP = 10.224.5.140
ADMIN_NETWORK_MASK = 255.255.248.0
ADMIN_NETWORK_MTU = 1400
ADMIN_NETWORK_TARGET = eth1
ADMIN_NETWORK_TARGET_TYPE = Interface
BLOCK_DEVICE_VAR_LOCAL = /dev/sda2
CLIENT_NETWORK_CONFIG = STATIC
CLIENT_NETWORK_GATEWAY = 47.47.0.1
CLIENT_NETWORK_IP = 47.47.5.140
CLIENT_NETWORK_MASK = 255.255.248.0
CLIENT_NETWORK_MTU = 1400
CLIENT_NETWORK_TARGET = eth2
CLIENT_NETWORK_TARGET_TYPE = Interface
GRID_NETWORK_CONFIG = STATIC
GRID_NETWORK_GATEWAY = 192.168.0.1
GRID_NETWORK_IP = 192.168.5.140
GRID_NETWORK_MASK = 255.255.248.0
GRID_NETWORK_MTU = 1400
GRID_NETWORK_TARGET = eth0
GRID_NETWORK_TARGET_TYPE = Interface
NODE_TYPE = VM_API_Gateway
PORT_REMAP = client/tcp/8082/443
PORT_REMAP_INBOUND = client/tcp/8082/443
```

5. ポートの再マップを削除するには、PORT_REMAP および PORT_REMAP_INBOUND エントリを編集します。

```
PORT_REMAP =
PORT_REMAP_INBOUND =
```

6. 次のコマンドを実行して、ノードのノード構成ファイルへの変更を検証します。`sudo storagegrid node validate` *`node-name`*

   次のステップに進む前に、エラーや警告に対処してください。

7. ポートの再マップなしでノードを再起動するには、次のコマンドを実行します。 `sudo storagegrid node start` *`node-name`*

8. ノードに管理者としてログインし、 `Passwords.txt`ファイル。

9. サービスが正しく開始されていることを確認します。

   a. サーバー上のすべてのサービスのステータスのリストを表示します。`sudo storagegrid-status`

ステータスは自動的に更新されます。

b. すべてのサービスのステータスが「実行中」または「検証済み」になるまで待ちます。

c. ステータス画面を終了します。`Ctrl+C`

10. 競合する再マップされたポートを持つ各管理ノードとゲートウェイ ノードでこれらの手順を繰り返します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。